



病院理念
私たちは利用して下さる方
ひとりひとりのために
最善を尽くすことに誇りをもつ

聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院 企画・発行



目次 <contents>

- 道標 / ひまわり2525プロジェクト in はままつ
- びょういん通信 / 3T (テスラ:磁場強度) MRI装置導入
- 方位磁針 / 子宮頸癌予防ワクチン

- 患者会紹介 / 浜松脳卒中友の会
- シリーズ 地域医療連絡室から ③
- みちくさ / 居酒屋「RYOUMAYA」
- 出会い / 熱～いお湯と 工夫する楽しさ

熱～いお湯と 工夫する楽しさ

聖隷福祉事業団
在宅・福祉サービス事業部
在宅サービス部 浜松ブロック長

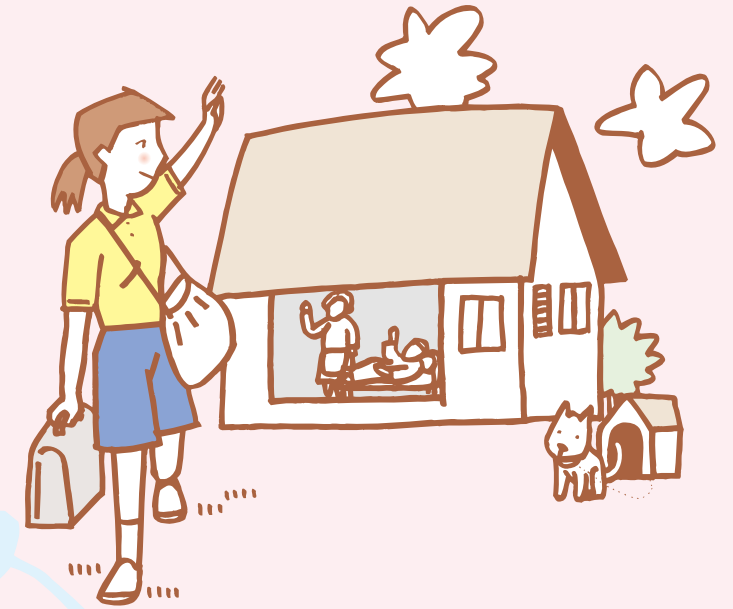
松井順子

私の在籍していた短大は一定の実習病院を持たず、短大の近くにある病院に少人数ずつ分かれて実習をしており、いろいろな病院に実習に行きました。その中で聖隷浜松病院が最初の実習先でした。それが、私の聖隷浜松病院との出会いです。初めての实習で緊張に緊張の連続の1週間。右も左も分からず、担当の看護師さんの後ろを必死で追いかけていたように思います。そんな中でも今も鮮明に記憶しているのが、どの看護師さんも大きなバケツに熱～いお湯を入れて「私、手の皮厚いのよ」と言いながら手を真っ赤にして熱いタオルを絞って患者さんの体を拭いていたことです。そして、「あ～気持ちいいね!」という患者さんの笑顔。当時、学生の私はお湯が熱くて手を入れられず、悔しかったこと。そのとき、聖隷の看護師さんのすごさを感じました。

1982年4月、私は迷わず聖隷浜松病院へ就職。そして、いつの間にか私の手の皮も厚くなり、聖隷浜松病院の看護師になれたように感じていました。

就職3年目、脳外科病棟に勤務していたときに聞いた、入院しているご主人の見舞いで毎日遠くから通っていた高齢の奥さんのひと言。「この管がなければ家に連れて帰れるんだけど…」患者さんは脳血管障害で寝たきりで、経管栄養の方でした。現在のように介護保険も訪問看護もない1985年の頃。その奥さんの言葉に、当時の私は「そうですね…」とあまいに伝えることしかできませんでした。しかし、いつまでもこの奥さんの言葉が心に残り、なんとかならないものかと悩んでいました。

そんな折、1987年に病院の中に訪問看護室を立ち上げるということで、私はそのメンバーになりました。当時の上野桂子管理婦長が訪問看護室の婦長を兼任し、計3人のメンバーで訪問看護室がスタート。それが私の“地域・在宅”への第一歩です。退院後の患者さんの自宅へ訪問するということで、ユニホームも白衣から黄色のポロシャツとブルーのキュロット姿に。当時はなかなか斬新(?)



だったと思います。在宅は病院と違って医療用具は何もなく、点滴棒の代わりに柱に釘が1本。それでも経管栄養のボトルはつるせませす。消毒は大きな鍋での煮沸消毒。退院患者さんの支援なんておこがましく、既に自宅で療養されている方に教わることばかりでした。「あるもので工夫する、作り出す」アイデアを、そして楽しさを。その一つが“高さ調整機能付き入浴用椅子”です。施設課の方の協力のもと、利用者さんのお宅の浴槽の高さに合わせて椅子の高さが変わるといふ木製入浴用椅子を作成してもらいました。この椅子が重かったこと!今では入浴用椅子は介護用品として市販されていますが、当時は貴重な椅子で地域看護学会に発表させてもらったくらいです。

病院という建物から地域へ出て、かれこれ20年が経とうとしています。今も「聖隷」という看板を背負った公用車で街中を走り回っています。短大1年生の時に感じた「病気で大変な思いをしている患者さんに、ほんの少しでも気持ちよさを伝えるためのお湯の熱さ」と、「工夫して作り出す楽しさ」を教えてくださいました聖隷浜松病院での経験は私の仕事の原点であり、今も地域で頑張れる原動力です。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  総合病院 聖隷浜松病院 [財団法人 日本医療機能評価機構認定病院] [地域医療支援病院]

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 TEL.053-474-2222 (代) FAX.053-471-6050

ホームページアドレス <http://www.seirei.or.jp/hamamatsu>

てくてく第28号:制作・編集/聖隷浜松病院広報委員会 発行者/堺 常雄 発行月/2010年9月